

実習や局員の方々との交流を経て、業務や通信局で働くことの理解が深まった

参加の目的と背景

私がインターンシップに参加した目的は、実務に携わることで東海総合通信局の業務への理解を深め、職場の雰囲気をつかむためである。説明会などからでは得ることのできない実務での動き方や現場の雰囲気を、インターンシップを通じて感じ取りたいと思い参加した。

インターンシップ先の紹介

東海総合通信局は総務省の地方支分部局で全国に 11 か所ある総合通信局所の 1 つであり、管轄区域は愛知・岐阜・三重・静岡県であり、勤務地は名古屋合同庁舎第 3 号館である。無線局の許認可の審査、検査、電波の管理など、電波や通信に関わる多様な業務を行っている。身近にあふれる無線局や、電波・通信・放送を管理することで、通信局は私たちの日常生活を通信や電波の面から大きく支えている。

実施内容

<1 日目・9 月 2 日 月曜日 9:00~17:00>

・船舶・航空無線局の許認可・検査関係の概要 航空海上課

航空機や船舶には多くの無線局が搭載されており、これらの無線局の安全な使用のために、航空海上課では申請書の審査、ロケーションチェック、総合試験を行っている。無線局の名称や役割を学び、またどのような検査を行っているかイメージすることができたと感じる。午後には、電波法と実習用に作成された模擬申請書を照らし合わせ、申請書が法令と適合しているか模擬審査を行なった。申請書の審査方法や、審査項目の表す意味など、実務的で専門的な学びを得ることができた。無線局の審査は人命にも関わるため責任重大であるが、自分が審査した航空機などが人の移動、行政などを支えることは大きなやりがいであると学んだ。

・携帯電話等の無線局の許認可・検査関係の概要 陸上課

陸上課では陸上所轄事項である警察や国土交通省、総務省の無線に関する検査や一般各種業務用無線など幅広く無線局検査を行っている。無線局というと身近なものに感じづらいが、実際にはスマホや ETC など、無線局は生活に密接に関わっており、陸上課の業務の身近さと重要性を改めて認識した。国際イベントでは、持ち込まれた海外無線局の審査も行っており、2 日目に説明のあった電波利用企画課では混信を防ぐために周波数を管理・調整し、海外無線局を安全に使用できるようにしていると学んだ。

・各種無線機器の通信操作及び簡易測定 陸上課・監視調査課

無線局の簡易測定検査を行ない、検査では厳しい基準を設定していることを学んだ。また、MCA 無線と簡易無線の通信の方法の違いなどについて学び、実際に無線機を使用して、無線機の種類によって情報の伝達する速度の違いなどを体感することができた。

・災害対策用機器等の概要 防災対策推進室

防災対策推進室では災害時の通信と放送の確保を主な業務としており、災害時には移動電源車や人員などを派遣して被災地の復興や被災した方々の生活を通信や放送の面で支えている。技術の進歩や災害の発生、災害の発生可能性が高い場合など、その時々で新たな機器の導入や、通信の確保支援のための体制を変化させ柔軟に災害に対応している。

<2日目・9月3日 火曜日 9:00~17:00>

・大学向け研究開発事業の概要と取組 総合通信調整官 (DX 担当)

内閣による総合イノベーション戦略では、人手不足のため、AI による自動化が喫緊の課題とされている。AI 研究も含め、研究は大学の教授、企業などで連携をして行っており、その舵取りをする、もしくは援助をするというのが行政の役割であると学んだ。このような産学官連携では国が大学へ研究開発の委託を行うこともあり、その一環として SCOPE があることを知った。

・国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) における研究支援事業の概要 NICT 様

NICT では ICT を活用した研究開発の成果を社会に還元することを目指し活動している総務省の所轄する唯一の研究開発法人である。NICT の活動の一つである民間や大学へ行く ICT 分野の研究支援では、総務省も関わっており、共に、産学官連携において企業と大学を引き合わせるという役割を担っていることを学んだ。

・大学向け総務省施策の促進 情報通信連携推進課・電波利用企画課・総合通信調整官 (DX 担当)

SCOPE で採択された課題の成果展開について名古屋大学病院を訪問して研究内容についての説明を受けた。名古屋大学病院では DX を推進しており、組織全体としてのデジタル化を進めデジタル化の恩恵を享受し、業務の効率化を図っているということを先生からお聞きした。医療機器の他病院への貸し出しの事例では、貸した側と借りた側での情報の差があるために、病院全体での医療機器の使用に関して非効率が生じるということで情報の可視化が重要であると学んだ。SCOPE の成果の一つであるロケモニは名古屋大学病院と名古屋工業大学が共同開発した医療機器にとりつけることで位置情報や稼働状況を可視化するため、業務の効率化に貢献していることがわかった。通信局も携わり開発された製品が実際に現場で成果をあげており、DX 促進のため複数の病院間で利用するための研究を続けているという報告を受け、インターン生ながら感激し、大きなやりがいのある仕事なのだろうと感じた。

成果と学び

様々な課の方々から具体的な業務についての説明をお聞きし、そして実務を体感したことで、参加する前と比べ業務への理解が深まったのではないかと感じる。説明や体験を通して、東海総合通信局は電波や通信、放送という観点から日本を支えていて、身近で普段の生活と深く密接したところに関する業務を行っていることを改めて認識し、実習における局員の方々の温かいご指導や交流からは、コミュニケーションが活発で風通しの良い職場で

あることを感じとれた。私は2日間という短期間での参加となったが、実習や局員の方々と接することで、東海総合通信局で働くということがどういうことなのか体感することができたと感じる。ここで得た経験や学びを今後のキャリアを考えていく中で活かしていきたいと思う。